

## 看護部 経年別教育目標

対象	目標
卒後1年目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 新潟手の外科研究所病院職員、社会人としての自覚と誇りを持つ。</li> <li>2. 基本的知識・技術を習得し、看護援助を確実・安全に実施できる。</li> <li>3. 受け持ち患者のケアを通し、看護過程の展開ができる。</li> <li>4. 看護チームメンバーとしての役割がわかる。</li> </ol>
卒後2年目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主な疾患の病態・治療・リハビリ・看護を理解し、患者の看護過程が展開できる。</li> <li>2. 看護チームメンバーとしての役割を理解し、メンバーシップが発揮できる。</li> <li>3. 専門職業人として自己の課題を見つけ、課題達成に向け自己学習できる。</li> </ol>
卒後3年目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 日常的な看護業務を主体的に実践できる。</li> <li>2. 教育的資質を高め、プリセプターとしての役割を果たすことができる。</li> <li>3. 院内・外の研修に積極的に参加し、自己の看護実践能力を高めることができる。</li> </ol>
卒後4～5年目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 問題意識を持って看護実践でき、状況に応じたリーダーシップが発揮できる。</li> <li>2. 看護実践者としての役割モデルとなる。</li> <li>3. 教育計画に基づいて、後輩の指導・教育ができる。</li> </ol>
卒後6～10年目	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. リーダーとして部署全体の看護活動を把握し、他部門との調整ができ看護業務の向上が図れる。</li> <li>2. スタッフナースの教育的役割ができ、プリセプターのメンターとして支援ができる。</li> <li>3. 自己の課題を持ち、自己啓発に努める。</li> </ol>
卒後11年目以上	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 専門職としての役割モデルとなり、質の高い看護を継続的に実践できる。</li> <li>2. スタッフナースの教育的役割を担うことができる。</li> <li>3. 部署の諸問題解決に向け、上司に協力しながら活動できる。</li> <li>4. 自己の課題を持ち、自己啓発に努める。</li> </ol>
主任	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 主任の職務を理解し、看護主任の補佐ができる。</li> <li>2. 看護部および看護単位の起きている問題や起こりうる問題を予測し、解決に向けた働きかけと報告ができる。</li> <li>3. 教育委員会への協力・連携を持ち、自部署の教育計画の責任者としてスタッフ指導、教育ができる。</li> <li>4. 自己啓発に努め、リーダーシップを発揮する。</li> </ol>
師長	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 病院における看護部の組織を理解し、看護単位の責任者としての役割を果たすことができる。</li> <li>2. 看護部および看護単位で起こっている問題や起こりうる問題を予測し解決できる。</li> <li>3. 看護単位における看護業務管理、人事管理、安全教育、経営管理ができる。</li> <li>4. スタッフの育成と能力開発、看護研究の指導ができる。</li> </ol>